

船舶検査(船検)

1 免許・船検が不要

下記①～③のすべてに該当する場合
①船の長さ(登録長)が3m未満であるもの。 ②推進機関の出力が1.5kW未満であること。
③キルスイッチ・遠心クラッチ・中立ギア・プロペラガードなど、直ちにプロペラの回転を停止することができ、プロペラによる人の身体の障害を防止する機能を有すること。

2 免許・船検が必要

費用	船の長さ	3メートル未満	3メートル以上 5メートル未満
	定期検査	11,600円	16,700円
費用	中間検査	5,100円	8,200円

有効期間

6年(船舶検査証書の有効期間)

定期検査

3年目

3ヶ月

3ヶ月

3ヶ月

中間検査

定期検査

【必要法定備品】
●ライフジャケット ●時計(腕時計で可)
(認定品、人数分) ●係船ロープ(アキレスボートには標準装備)
●浮環(認定品1個) ●標準工具(エンジンに付属)
●消火バケツ ●信号紅炎(認定品2個)
●笛(1個) ●アンカー+黒球(錨泊する船のみ)
※船舶検査を受けたボートを使用する際には、必ず法定備品を積載してください。

※馬力とkW表示 (kW=馬力数×0.7355)
[航行区域]
船舶検査に合格したインフレータブルボートは各艇ごとに定められた航行区域内で使用できます。
アキレスボートの航行区域は以下の通りです。
①全ての平水区域。
②次のA・Bのうち、どちらかを選択。
A.母港(1ヶ所)、出航港(2ヶ所)から3～5海里の海域(艇種及び船外機により異なる。)
B.任意の海岸から3海里以内の海域(一部艇種を除く。)
※5海里とした場合のボートの要件は下記になります。
①5海里航行の場合は、任意の母港1ヵ所に限定されます。
②トランサム付き艇又はFRP複合艇であること。
③船首部に波よけ布があること。
(立会い検査時に波の打ち込みがないことが確認できれば省略可。)
④主機の出力が11kW(15PS)以上であること。
⑤気室の区画は、4区画以上であること。
⑥満載状態における最強速力が5ノット以上であること。
尚、詳しくは検査成績表をご確認ください。

3 免許必要・船検不要

次の要件のすべてを満足する場合
①旅客の定員が3人以下(操縦士以外) ②船外機の出力が3.7kW以下
③湖・沼・池の他、ダム、せきなどで貯留された水域で50平方キロメートル以下の水域(及び告示で定める以下の水域:能取湖・屈斜路湖・風連湖・洞爺湖・小川原湖・十和田湖・浜名湖・宍道湖・中海・浦の内湾・江田島湾・羽地内海)のみを航行するもの。

4 ボートの登録・免許必要・船検必要

長さ3m以上のボートはたとえ船外機が2馬力以下であっても右記すべてが必要です。 ①ボートの登録 ②免許 ③船検

詳細について 問い合わせ先	船舶免許について (一財)日本船舶職員養成協会(本部) TEL:03-3263-0301 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5海事センタービル	船舶検査と登録について 日本小型船舶検査機構(本部) TEL:03-3239-0821 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-3飛栄九段北ビル5階

お問い合わせ先 ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店・代理店お近くの弊社販売部にお問い合わせください。

アキレス株式会社

http://www.achilles-rf.com/boat/ https://www.achilles.jp

引布販売部

本 社：〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー
TEL 03-5338-9360 FAX 03-5338-9369

関 西 支 社：〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島2-2-7 中之島セントラルタワー
TEL 06-4707-2315 FAX 06-4707-2305

北海道営業所：〒061-3241 北海道石狩市新港西1-726-3
TEL 0133-73-9591 FAX 0133-73-9590



取扱説明書

アキレスパワーボート マニュアル

ACHILLES POWER BOAT

このたびは、アキレス製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

●本書はアキレスボートを安全に使用していただくための正しい取扱方法と簡単な保守、点検方法を記載いたしました。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、この船の「概要」、「使用に際しての安全の確保」、「保守の点検」について習熟してください。万一、使用中にわからないことや、不都合が生じた場合、きつと役に立ちます。

●本書の説明はアキレスボートの中で代表的なボートを例として説明していますので、お買い上げいただいた商品と異なる場合があります。

●お読みになった後は、ご使用になる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。また、乗船時には携帯してください。転売や譲渡の場合は、この取扱説明書を新しい所有者に必ず渡してください。

●仕様規格は予告なく変更する場合がございます。

●一度使用したボートのご返却はできませんのでご了承ください。

●エンジンを付けて走行する場合、小型船舶免許及び船舶検査が必要です。(ただし、船の長さ(全長×0.9)3m未満でエンジン出力が1.5kW未満の場合を除きます。)詳しくは本書の裏表紙に記載された **3** をご覧ください。

この取扱説明書には、ご使用に際して、特に重要な案内事項は **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** マークを使用して表現しています。これらのマークにより表現された内容は、以下のような意味を持ちますので、特に注意してください。

- ⚠危険** 死亡または重傷につながる差し迫った事故を未然に防ぐための事項を示しております。
- ⚠警告** 死亡または重傷につながる可能性がある事故を未然に防ぐための事項を示しております。
- ⚠注意** 軽傷または製品や物品の損傷につながる可能性がある事故を未然に防ぐための事項を示しております。

目次

1. 安全に係る注意事項について P.2 / 3 / 4

2. 各部名称 P.5 / 6

- ボートの構造
- ボートの取り扱い方法

3. ボートの組み立て方法 P.7 / 8 / 9 / 10

- 各モデルの組み立て方法

4. 付属品について P.11 / 12 / 13 / 14

- ①各エアバルブの取り扱い方法
- ②オールの取り付け方法
- ③イス板の取り付け方法
- ④フットポンプの使い方
- ⑤バウカバー及び支柱の取り扱い方法
- ⑥セルフベアラ―
- ⑦モーターマウント
 - 1. 木製モーターマウントの取り付け方法
 - 2. パイプ式モーターマウントの取り付け方法

5. ボートの収納方法 P.15 / 16

- 各モデルの収納方法

6. 船外機について P.17 / 18

- ①船外機の取り付け方法
- ②船外機の調整方法
- ③チルトピンの調整方法
- ④船外機を始動する前に
- ⑤船外機の始動方法

7. 走行時の注意事項について P.19 / 20 / 21

- ①離岸
- ②走行
- ③旋回
- ④着岸
- ⑤係留
- ⑥曳航
- ⑦走行時の注意事項

8. 保管・補修について P.21 / 22

- ①使用後の洗浄
- ②保管方法
- ③修理
 - 1. ゴム引布の構造
 - 2. 推奨できる市販の接着剤
 - 3. 修理方法

1. 安全に係る注意事項について

安全にご使用いただくために

ボートを操船する時、船長であるあなたはボートと乗船者に対して、すべての責任を持たせなければならないということを忘れてはいけません。

⚠ 警告

・アキレスボートは「小型船舶」です。（船の長さ3m未満でエンジン出力が1.5kW未満の場合を除く。）操船にあたり「二級小型船舶操縦士」以上の海技免状が必要です。操船時には、必ずこの海技免状を携帯してください。

・船舶検査を受検し、「船舶検査証書」「船舶検査手帳」「船舶検査済票」の交付を受けてください。（湖川を除く。）本書の裏表紙に記載された **3** をご覧ください。

※「船舶検査済票」は、外から見やすい位置に必ず貼りつけてください。オプションで船検プレートを用意してあります。操船時には「船舶検査証書」及び「船舶検査手帳」は必ず船内に備えてください。

・船舶検査証書に記載された船舶の航行区域を厳守してください。

・乗船者には必ずライフジャケットを着用させてください。
また、法定備品が必要数、確実に船内に備えてあることを確認後、操船をしてください。

・海上法規を守ってください。
※水上に於ける交通ルールを守り、マナーの良い運転を心掛けてください。
※操船する時は、必ず安全のための規則、各地方の条例等を確認し、それらに従ってください。

⚠ 危険

・火気厳禁
船内は火気厳禁です。ガソリン、オイルを給油する時はエンジンを停止し、風通しの良い、換気の良い所で行ってください。
また、その周囲は火気厳禁です。

・エンジン回転中はプロペラの回転部分に注意し、それらに身体、衣類を近づけないでください。

・酒気を帯びていたり、正常な判断及び運転技術を妨げる恐れのある薬物を服用した状態で操船をしないでください。

天気予報のチェックをしてください

出港する前に、航走をする地域の天気予報を確認し、天候が航行に悪影響を及ぼさないかよく調べてください。また、気象の変化に十分な注意を払ってください。

⚠ 警告

海の気象は急激に変化する時があります。突風、霧等の前兆があれば直ちに帰港してください。

始業点検の実施

航行の安全を確保するために、使用する前に入念に始業点検を実施してください。

服装について

活動をしやすい服装を選定してください。また、履き物はボートシューズ等を使用してください。

グループでボーティング

水上での機関の故障等、万が一のトラブルに備え単独行動は避け、グループで行動をしてください。もし水上で何らかのトラブルにより航走不可能な状態になった時は、速やかに何らかの方法で意思表示を行い救助を求めてください。

航行時のマナー

遊泳者の近辺、船舶の往来の激しい水域、及び漁業者の妨げになる水域での航走をしないでください。

操縦時の特性

⚠ 警告

後進時はスロットルコントロールグリップを最低速の位置に戻し、エンジンの回転を下げて行ってください。急速な後進操作はトランサムからの水の流入を起こす場合があります。

⚠ 注意

一般的にインフレーターボートは、後進時に舵の方向へ旋回しないことがありますので、ご注意ください。

水深に注意してください

⚠ 注意

水深1m以下の所でエンジンの始動を試みたり、航走をしないでください。

排気ガス中毒を予防するために

⚠ 危険

密閉された場所、遮へい物で囲まれた場所、洞窟内等の換気の悪い場所でエンジンを運転しないでください。排気ガス中には、無色無臭の一酸化炭素等が含まれており、排気ガスがこもる場所で運転すると死亡事故の重大な原因になります。

海藻及び浮遊物が多い所で操縦しないでください

⚠ 注意

航走中にエンジンの吸水口に藻、ゴミ、その他の浮遊物が詰まりエンジントラブルの原因になります。また、それらがプロペラに巻きつき事故の原因になります。

使用後の点検を実施してください

⚠ 注意

使用後の点検を行ってください。航走が終了したら不調な箇所がないかチェックをしてください。もし不具合が発見された場合、次回の使用時までには必ず調整、修理を行ってください。

安全運転のためのチェック項目

ボートを進水させる前、エンジン始動前に、水上でのトラブルを防止し、ボーティングを安全に最大限に楽しむために、始業点検を実施すると共に以下の項目についてチェックを行ってください。

1 天候

テレビ、ラジオ、新聞等で常に最新の気象情報を入手し、出港に差し支えないか確認してください。

2 船体のチェック

⚠ 警告

・底板及びトランサム板の周りに異常がないかどうか。
・空気漏れがないかどうか。（空気を入れた後24時間放置し、チューブの内圧に変化がなければご使用ください。内圧を見るには指をチューブに押し付けてください。気温が同じという条件下で、チューブを押した時の感触が空気を入れた時と24時間後とが同じであれば、内圧はほぼ同じです。別途販売品の圧力計で確認することをお勧めします。）

⚠ 警告

・底板及びモーターマウントが正確に取り付けられているかどうか。エアバルブがしっかりと締められているかどうか。（気温が上昇しますと空気は膨張します。）日中ちょうど良いと思った内圧が、夕方になり気温が下がると、内圧が下がります。この反対に、朝ちょうど良いと思った内圧が日中上がり過ぎることがあります。内圧が上がり過ぎたり、下がり過ぎたりしないよう適度の内圧を保つよう常にご注意ください。
・ボートを進水させる前に、セルフベラー及びそのパッキンに、損傷等がないか必ずチェックし、損傷等があるものは交換した後、所定の位置に確実に取り付けてください。（セルフベラーが装着されていないボートもあります。）

3 エンジンが正常に維持できているかどうか

⚠ 警告

走行している間にクランプネジが緩んでいないか、充分なガソリンが入っているか確認してください。非常の場合を考えて、ボートとエンジンをロープで固定してください。

⚠ 注意

本体チューブは各気室に分かれているため、一つがエアーが漏れを起こしてもすぐに沈没することはありません。また、本体チューブは隔膜で仕切られていますが、一つの気室が抜けると他の気室も若干くぼみますが、これは隔膜が破れているのではなく、隔膜が抜けた気室の方へ少し膨らんだために起こる現象ですので問題はありません。

4 救命設備

⚠ 注意

ボートには次の法定備品が必要です。（船の長さ3m未満、エンジン出力1.5kW未満のボートを除く。）
①ライフジャケット（認定品、人数分） ②浮環（認定品1個） ③消火バケツ ④笛（1個）
⑤時計（腕時計で可） ⑥係船ロープ（アキレスボートには標準装備） ⑦標準工具（エンジンに付属）
⑧信号紅炎（認定品2個） ⑨アンカー＋黒球（錨泊する船のみ）
※船舶検査を受けたボートを使用する際には、必ず法定備品を積載してください。

5 その他:これだけは忘れずに!

⚠ 注意

・オールはエンジンが故障した場合、ポンプは空気が減った時に補充するために必要です。
・海上での自船の視認性を上げるために、セーフティーフラッグを装備。また、非常事態のために携帯電話を持参してください。

6 フューエルシステム

⚠ 危険

フューエルシステムの点検を行う時は禁煙、火気厳禁。
※フューエルタンク内の燃料の量を確認してください。必要であれば燃料の補給を行ってください。
ガソリンは非常に引火しやすく危険な液体です。
・給油の時はエンジンを停止し、換気の良い所で作業を行ってください。
・給油中、及びガソリンの取り扱い時は火気厳禁。
・燃料をこぼさないようにしてください。万が一こぼれた場合、燃料は完全に拭き取ってください。
燃料漏れが発生している箇所がないかどうかチェックしてください。
ホースを点検し、劣化やひび割れが発生していないことを確認してください。
燃料漏れは火災、爆発の原因になりますので、燃料漏れが発生している箇所は必ず修理をしてください。

7 乗員(積載量)

最大積載人数を厳守してください。また、エンジン、所持品を含む最大積載重量を超えないようにしてください。

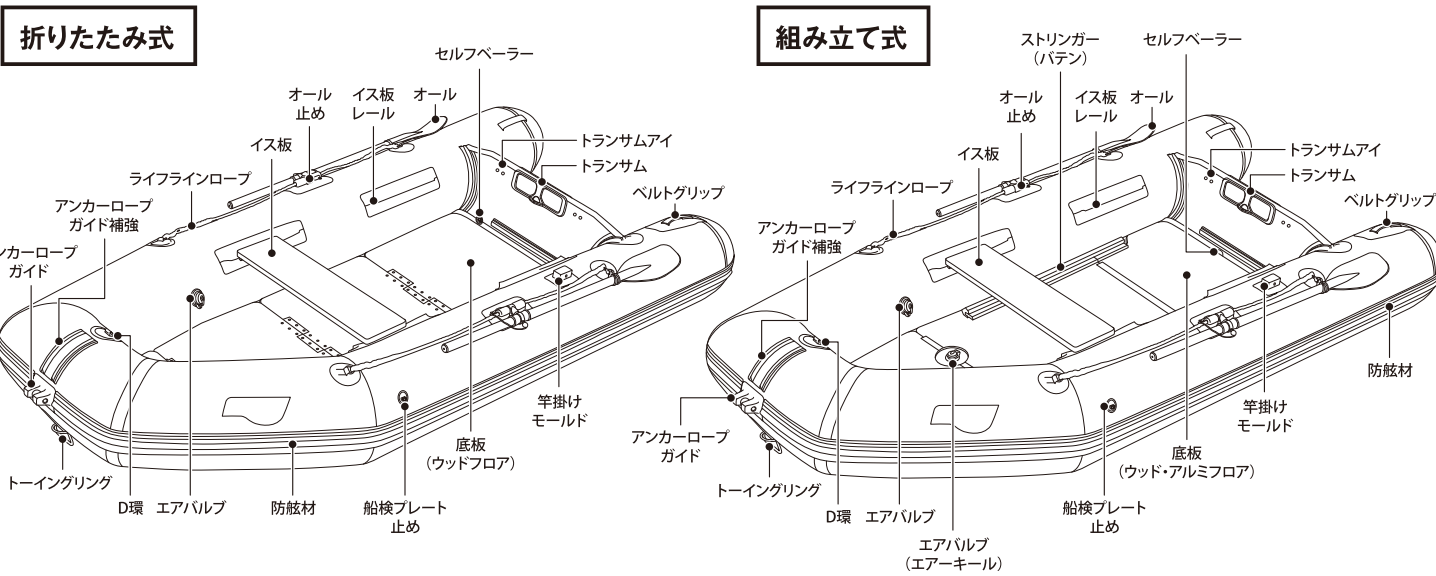
⚠ 危険

最大積載人数を超えて乗船したり、過積載の状態で航走するとハンドリングが重くなったり、緩慢になるため非常に危険です。また、乾舷が低くなりボート内に浸水しやすくなり、荒天時は非常に危険です。

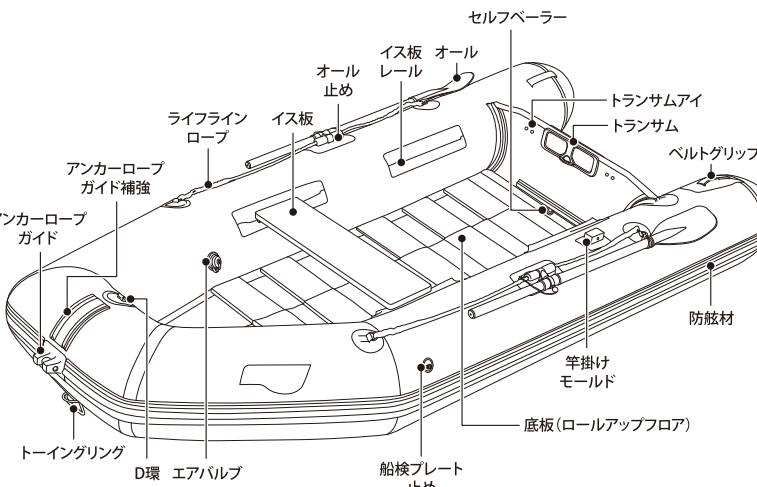
2. 各部名称

アキレスパワーボートには大きく分けて3つの底板のタイプがあります。ここでは各種ボートのうち一例をあげてご説明します。

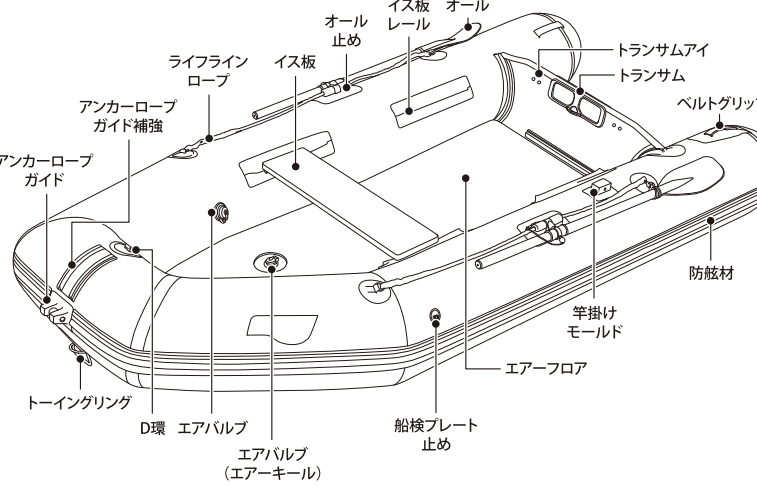
ウッド・アルミフロアモデル



ロールアップフロアモデル



エアーフロアモデル



ボートの構造

アキレスパワーボートの船底構造は、下記6種類の構造に分けられております。お客様がご購入されたボートがどの船底構造になっているか確認してください。また、本体チューブは安全を考慮して2気室以上に設計しており、万一、片側の気室が破損しても浮いていることができます。使用前には気室や隔膜の有無を確かめてください。

エアーフロア (底板) + エアーキール

船底に配置された筒状のエアー体をエアーフロア (底板) で押し下げ、V型船底構造を作り出します。このエアーキール構造により、走行性・波切り性を高めています。

エアーフロア (フラット型)

アルミフロアや底板に比べ走行性は劣りますが、折りたたみがしやすく、軽いため、運搬性に優れています。
※デッキ部分に傷がつきにくいようにシートなどを敷くと長持ちします。

VIBエアーフロア

空気を入れるだけで、V型船底構造を作り出すボート一体型フロア。高い剛性により底板艇に近い走行性を実現します。(PVCボートの一部に採用。)

ロールアップフロア

必要最低限の板をあらかじめ数枚配置し、空気を入れるだけでボートが組み上がります。

底板 (折りたたみ式)

接合部分をヒンジでつないだ折りたたみ式です。ストリンガー (バテン) 不要で、簡単にセットできます。

底板 (組み立て式)

組み立てが必要ですが、剛性が高く走行性に優れています。安定性と運搬性に優れ、船内作業も行いやすいバランスのとれた構造です。
※イラストは5枚板になります。

ボートの取り扱い方法

⚠ 注意

- ボートの組み立て、組み立て後、陸上に置いてある時はボートの上に乗らないでください。ボート本体が破損する原因となります。
- 石や鋭利なものがないことをよく確認してから、平らな場所にボートをまっすぐに広げて組み立ててください。
- ボートを陸上で移動する時は、必ずモールドグリップ、ベルトグリップ、もやい金具を持って移動してください。
- ボートを引きずって移動したり、ロープ等で吊り下げて運搬しないでください。

3. ボートの組み立て方法

※水上に出る前に組み立ての練習をお勧めします。
※各説明図は代表的なボートを使用して説明しています。

- 完成までの
手順はこちら
- 1ボートをまっすぐに
広げます
- 2底板を組み立てます
- 3エアバルブを締めます
- 4本体チューブを
9割程度充気します
- 5イス板を取り付けます
- 6本体チューブを
再充気します
- 7エアバルブを
まし締めします
- 8オールを取り付けて
完成です

折りたたみ式の場合

1 平らな場所にボートをまっすぐに広げます。

石や鋭利なものが無いことをよく確認してから、キャリアバッグのバックルを開け、ボート本体を平らな場所にまっすぐに広げてください。



2 底板を取り付けます。

底板をボート内部に広げます。まず、ボート先端に底板をしっかりと差し込みます。次に、船尾に向かって底板を差し込み、本体の下敷きになった本体チューブを引き出してください。最後に山になった部分を足でしっかり踏み込みます。

※底板が入りにくい場合は、先に本体チューブへ少し充気してから底板を入れると入りやすくなります。



3-1 フットポンプ(標準装備)で充気する方法。

付属のフットポンプで充気します。本体チューブの充気はホースを「低圧用接続口」に接続し充気します。

※ボートの種類により付属しているフットポンプの形状が異なります。

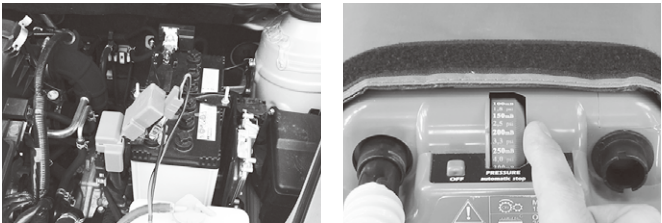
低圧用フットポンプ



3-2 電動ポンプ(オプション)で充気する方法。

車のバッテリーに電動ポンプ(オプション)のコードを接続(マイナス→プラス)し、本体チューブの推奨圧力は200mbr/20kPaに設定してください。(※圧力は160~220mbr/16~22kPaの範囲でご利用ください。)

電動ポンプは、設定した圧力になると自動で止まります。



4 本体チューブに充気を開始します。

200mbr/20kPa

本体チューブのエアバルブキャップを開けて電動ポンプ(オプション)もしくは、フットポンプを接続して9割程度まで充気してください。



5 イス板を取り付けます。

イス板レールにスライドさせながら取り付けてください。

※詳しい取り付け方法については、P.12をご確認ください。



6 本体チューブを再充気します。

本体チューブを再充気し、エアバルブキャップを締め、しっかりとエアバルブをまし締めしてください。

7 最後にオールを取り付けます。

詳しい取り付け方法については、P.12をよくご確認ください。



8 完成です。

船外機の取り付け方法については、P.17をよくご確認ください。また、海上では安全で節度ある航行を心掛けるようにしてください。



※エアーキールが付いたモデルの場合は、本体チューブ、エアーキールの順番に充気を行ってください。

組み立て式の場合

1 平らな場所にボートをまっすぐに広げます。

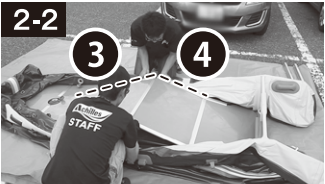
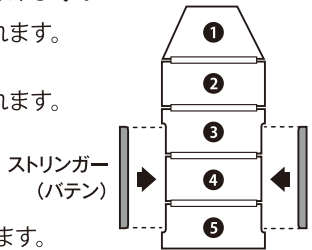
石や鋭利なものが無いことをよく確認してから、キャリアバッグのバックルを開け、ボート本体を平らな場所にまっすぐに広げてください。



2 底板(5枚)を順番に取り付けます。

- 1番の底板を船首に向かって入れます。
- 2番の底板を入れます。
- 5番の底板を船尾に向かって入れます。
- 4番の底板を入れます。
- 3番の底板を入れます。
- 3番と4番の山を押し込みます。
- ストリンガー(バテン)を取り付けます。

※底板が4枚の場合は、2番と5番の山を押し込みます。



ストリンガー(バテン)とは。

取り付けの際は、ボート内側の本体チューブをしっかりとめくり上げてから、ストリンガー(バテン)を差し込んでください。底板(ウッド・アルミフロア)の3番、4番、5番をストリンガー(バテン)で固定することで、底板(ウッド・アルミフロア)がはずれることを防ぐ効果があります。

3-1 フットポンプ(標準装備)で充気する方法。

付属のフットポンプで充気します。本体チューブの充気はホースを「低圧用接続口」に接続し充気します。また、エアーフロアへ充気の際は、ある程度充気が完了したら、圧力調整用キャップを外した状態の「高圧用」に切り替えて充気をしてください。

※圧力調整用キャップを付けた状態は低圧になり、外した状態が高圧になります。

※ボートの種類により付属しているフットポンプの形状が異なります。

低圧用フットポンプ



高圧用フットポンプ



※電動ポンプ(オプション)で充気する方法は、P.7をご確認ください。

4 本体チューブに充気を開始します。

200mbr/20kPa

本体チューブのエアバルブキャップを開けて電動ポンプ(オプション)もしくは、フットポンプを接続して9割程度まで充気してください。



5 イス板を取り付けます。

イス板レールにスライドさせながら取り付けてください。

※詳しい取り付け方法については、P.12をご確認ください。

6 本体チューブを再充気します。

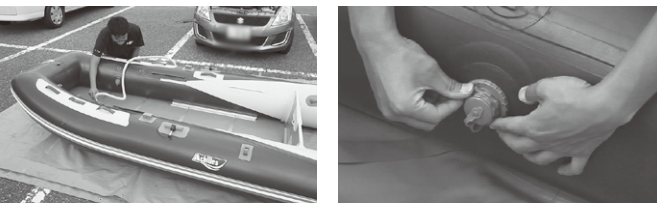
本体チューブを再充気し、エアバルブキャップを締め、しっかりとエアバルブをまし締めしてください。

7 エアーキールに充気を開始します。

200mbr/20kPa

エアーキールのエアバルブキャップをはずし、充気を開始してください。この時、電動ポンプ(オプション)の圧力は200mbr/20kPaに設定してください。充気が完了したらエアバルブキャップを締め、しっかりとエアバルブをまし締めしてください。

※フットポンプの場合、20~30回踏んで充気してください。



8 最後にオールを取り付けます。

詳しい取り付け方法については、P.12をよくご確認ください。

9 完成です。

船外機の取り付け方法については、P.17をよくご確認ください。また、海上では安全で節度ある航行を心掛けるようにしてください。



3. ボートの組み立て方法

※水上に出る前に組み立ての練習をお勧めします。
※各説明図は代表的なボートを使用して説明しています。

- 完成までの
手順はこちら
- 1ボートをまっすぐに
広げます
- 2底板を組み立てます
- 3エアバルブを締めます
- 4本体チューブを
9割程度充気します
- 5イス板を取り付けます
- 6本体チューブを
再充気します
- 7エアバルブを
まし締めします
- 8オールを取り付けて
完成です

ローラアップフロアの場合

1 平らな場所にボートをまっすぐに広げます。

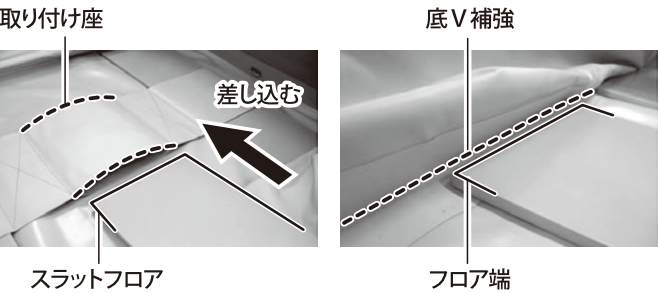
石や鋭利なものが無いことをよく確認してから、キャリーバッグのバックルを開け、ボート本体を平らな場所にまっすぐに広げてください。



2 スラットフロアを取り付けます。

ご購入時にあらかじめセットされているモデルもあります。

メンテナンスのために取りはずした場合は、充気する前に取り付けてください。スラットフロアを底布にある取り付け座の間に差し込みます。この時、必ずスラットフロアの両端が底V補強の内側にあることを確認してください。



3-1 フットポンプ(標準装備)で充気する方法。

付属のフットポンプで充気します。本体チューブの充気はホースを「低圧用接続口」に接続し充気します。

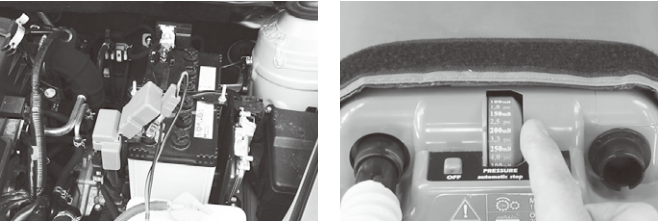
※ボートの種類により付属しているフットポンプの形状が異なります。



3-2 電動ポンプ(オプション)で充気する方法。

車のバッテリーに電動ポンプ(オプション)のコードを接続(マイナス→プラス)し、本体チューブの推奨圧力は200mbr/20kPaに設定してください。(※圧力は160～220mbr/16～22kPaの範囲でご使用ください。)

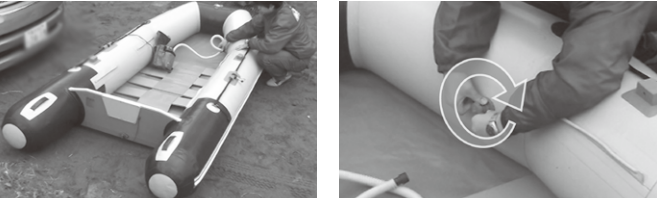
電動ポンプは、設定した圧力になると自動で止まります。



4 本体チューブに充気を開始します。

200mbr/20kPa

本体チューブのエアバルブキャップを開けて電動ポンプ(オプション)もしくは、フットポンプを接続して9割程度まで充気してください。



5 イス板を取り付けます。

イス板レールにスライドさせながら取り付けてください。

※詳しい取り付け方法については、P.12をご確認ください。



6 本体チューブを再充気します。

本体チューブを再充気し、エアバルブキャップを締め、しっかりとエアバルブをまし締めしてください。

7 最後にオールを取り付けます。

詳しい取り付け方法については、P.12をよくご確認ください。



8 完成です。

船外機の取り付け方法については、P.17をよくご確認ください。また、海上では安全で節度ある航行を心掛けるようにしてください。



※エアキールが付いたモデルの場合は、本体チューブ、エアフロア、エアキールの順番に充気を行ってください。

エアフロアの場合

1 平らな場所にボートをまっすぐに広げます。

石や鋭利なものが無いことをよく確認してから、キャリーバッグのバックルを開け、ボート本体を平らな場所にまっすぐに広げてください。

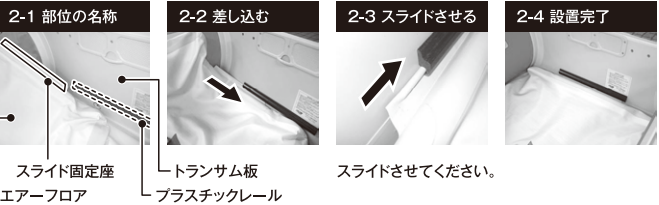


2 エアフロアを取り付けます。

ご購入時にあらかじめセットされているモデルもあります。

メンテナンスのために取りはずした場合は、充気をする前に取り付けてください。エアフロアのスライド固定座をトランサム板のプラスチックレールに合わせ、スライドさせて取り付けます。(スライド固定座が左右均等になるようにします。)

※ボートの種類によって、プラスチックレールがない場合がありますが、その場合は、ボートの床面にエアフロアをセットしてください。



3-1 フットポンプ(標準装備)で充気する方法。

付属のフットポンプで充気します。本体チューブの充気はホースを「低圧用接続口」に接続し充気します。また、エアフロアへ充気の際は、ある程度充気が完了したら、圧力調整用キャップを外した状態の「高圧用」に切り替えて充気をしてください。

※圧力調整用キャップを付けた状態は低圧になり、外した状態が高圧になります。

※ボートの種類により付属しているフットポンプの形状が異なります。



3-2 電動ポンプ(オプション)で充気する方法。

車のバッテリーに電動ポンプ(オプション)のコードを接続(マイナス→プラス)し、本体チューブの推奨圧力は200mbr/20kPaに設定してください。(※圧力は160～220mbr/16～22kPaの範囲でご使用ください。)

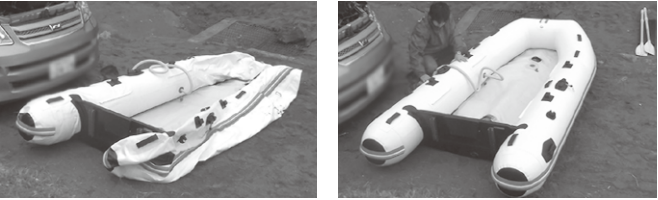
電動ポンプは、設定した圧力になると自動で止まります。



4 本体チューブに充気を開始します。

200mbr/20kPa

本体チューブのエアバルブキャップを開けて電動ポンプ(オプション)もしくは、フットポンプを接続して9割程度まで充気してください。



5 イス板を取り付けます。

イス板レールにスライドさせながら取り付けてください。

※詳しい取り付け方法については、P.12をご確認ください。

6 本体チューブを再充気します。

本体チューブを再充気し、エアバルブキャップを締め、しっかりとエアバルブをまし締めしてください。

7 エアフロアに充気を開始します。

500mbr/50kPa

エアフロアのエアバルブキャップをはずし、充気を開始してください。この時、電動ポンプの圧力は500mbr/50kPaに設定してください。充気が完了したらエアバルブをしっかりとまし締めしてください。



8 エアキールに充気を開始します。

200mbr/20kPa

エアキールのエアバルブキャップをはずし、充気を開始してください。この時、電動ポンプ(オプション)の圧力は200mbr/20kPaに設定してください。充気が完了したらエアバルブキャップを締め、しっかりとエアバルブをまし締めしてください。

※フットポンプの場合、20～30回踏んで充気してください。



9 最後にオールを取り付けて完成です。

詳しい取り付け方法については、P.12をよくご確認ください。

船外機の取り付け方法については、P.17をよくご確認ください。また、海上では安全で節度ある航行を心掛けるようにしてください。

4. 付属品について

1 各エアバルブの取り扱い方法

1 業界最大級の大口徑 PHNエアバルブ

弊社ボートの多くに使用されているエアバルブは充気口径25mm、排気口径31.5mmと業界でも最大級です。

充気操作

エアバルブを時計回りに回し、しっかり取り付けてください。次に、エアバルブキャップを反時計回りに回して開いてください。

充気後の操作

エアバルブキャップを時計回りに回し、必ず閉めてください。

PHNバルブの構造

一部のボートには別のタイプのエアバルブを使用しています。

危険

別途販売しております、圧力計でボート本体の内圧を確認してください。本体チューブの最大圧力は200mb (=20kPa=0.2kg/cm²=2.9PSI)、ハイレッシャーエアーボードの最大圧力は500mb (=50kPa=0.5kg/cm²=7.2PSI)です。上記の設定以上で充気をしないでください。使用前に必ずOリング、安全弁、逆止弁が正常にセットされているか確認してください。正常にセットされていない場合、使用中にエアー漏れの危険があります。上図のエアバルブキャップ、エアバルブともにしっかりまし締めしてください。

2 破損・故障リスク軽減 PRBエアバルブ

船体内に埋め込まれる「リセスト式」により、作業中にものが当たるなどのリスクを低減させたエアバルブです。本体からはずれない構造になっているため、紛失する危険も少なく、さらに充排気弁の開閉はねじ構造のため、スプリング式のような故障の心配もありません。

充気操作

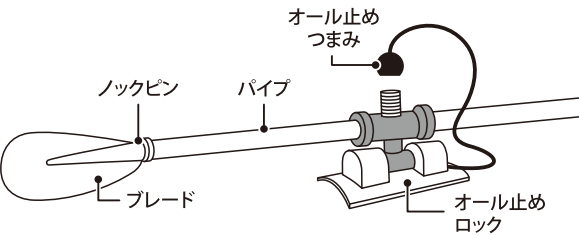
1. エアバルブを1回転程度、左へ回して緩めます。
2. フットポンプ（標準装備）、または電動ポンプ（オプション）のホースを充気口へ差し込みます。
3. 充気を開始してください。
4. 充気をしながら、エアバルブを右へ回し締めて完了です。
※充気後はしっかりとエアバルブを締めてください。

充気後の操作

エアバルブキャップを時計回りに回し、必ず閉めてください。

2 オールの取り付け方法

1. パイプをブレードに差し込み、ノックピンでしっかり固定してください。
2. オール止めロックのオール止めつまみをはずしてオールを差し込みます。
3. オール止めつまみをしっかりねじ込み固定します。



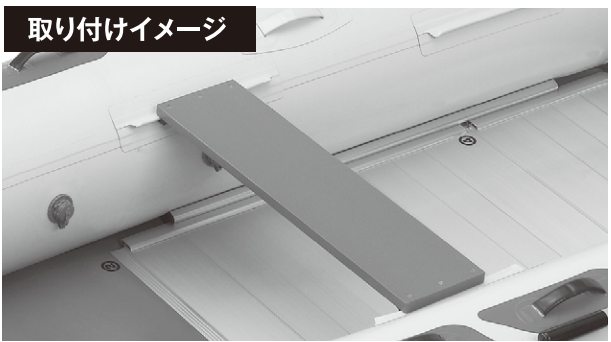
警告

オール止めつまみはしっかりねじ込んでください。ねじ込みが不十分だとオール止めつまみがはずれ、オール流出事故につながります。オールをテコ代わりに使用しないでください。オールを使用しない時は、本体チューブのオール止めつまみをしっかり固定してください。

3 イス板の取り付け方法

本体チューブに空気を9割程度充気した状態で取り付けると、イス板レールにスライドする時にイス板を取り付けやすくなります。

1. プラスチックレールの付いている方を下にします。
2. 船体側のスライドイス板固定座の端にイス板を合わせ、イス板レールに固定座が噛み合うようにスライドさせます。
3. イス板が左右均等に固定座に噛み合えば取り付け完了です。



3-1

3-2

3-3:完成イメージ

警告

イス板をイス板レールの左右にバランスよく取り付けてください。エアーの充気が不十分な場合、チューブに損傷を与え、エアー漏れの原因となります。

4 フットポンプの使い方

アキレスパワーボートは付属のフットポンプで充気が可能です。

1. 留め具をはずしてホースを取り出します。
2. ホースをフットポンプの充気口（ポンプから空気が出る方）に取り付けます。
3. ホースの先にボート口栓用アダプターを取り付け、本体チューブのエアバルブ（充排気口）に差し込みます。
4. フットポンプを踏んで充気します。

※ボートの種類により付属しているフットポンプの形状が異なります。

低圧用

底・高圧用

ホース取り付け図

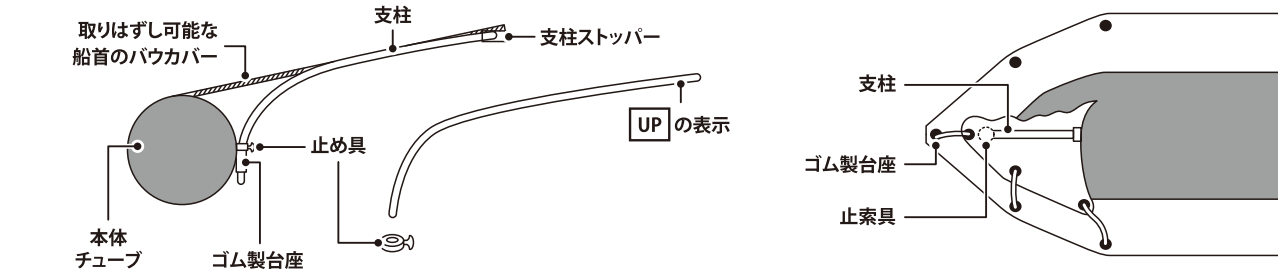
警告

フットポンプを勢いよく踏み切らないようにご注意ください。ポンプ破損の原因になります。

5 バウカバー及び支柱の取り扱い方法

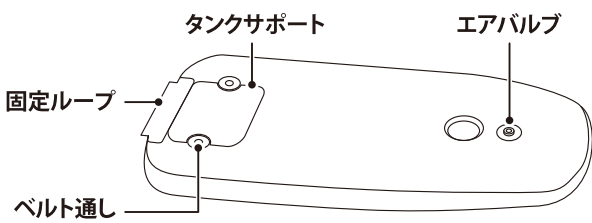
1 取りはずし可能なバウカバー及び支柱の組み立て方法

ボートの型式によっては、このバウカバーが付いていないものもあります。



2 ハイプレッシャーエアボードの組み立て方法

タンクサポートの位置はボートによって異なります。



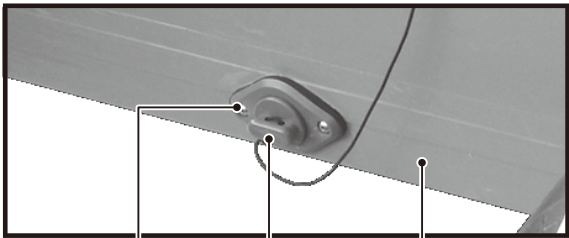
1. 固定ループがトランサムにしっかり差し込まれ、かつ中心にセットされていることを確認してください。
2. ボート本体を充気後は、①ハイプレッシャーエアボード → ②エアーキールの順番に充気をしてください。
※キール装備のないアイテムについては、①本体 → ②ハイプレッシャーエアボードの順番に充気をしてください。
3. 燃料タンクは所定の位置にセットしてください。タンクサポートの中心に燃料タンクを置き、ロープまたはベルトでしっかりと固定してください。
4. ハイプレッシャーエアボードの最大圧力は50kPa (=500mb=0.5kg/cm²=7.2PSI) です。これ以上空気を入れないでください。充気は必ず付属のフットポンプまたは弊社指定の電動ポンプ(オプション)を使用してください。
5. 使用後は真水でよく洗い、特にハイプレッシャーエアボードと底布の間に溜まった砂や小石などを完全に洗い流してください。

警告

- 下記の注意事項は必ず守ってください。バーストする事故につながります。
1. ハイプレッシャーエアボードの上に乗る場合は、靴底は柔らかいタイプをご使用ください。
 2. アンカー等の鋭利なものを直接ハイプレッシャーエアボードの上に置かないでください。
 3. 小石や釣り針等の鋭利なものが、ハイプレッシャーエアボード上にないことを必ず確認した上でご使用ください。
 4. 高圧気室のため、表面を強くこする等の行為は絶対にしないでください。

6 セルフベラー

船体のトランサム板にはセルフベラーが備え付けられています。(一部モデルを除く) 船内に水が浸水した場合、トランサム板下部に取り付けられたセルフベラーを使用して、船外に水を排出することができます。キャップを取りはずした状態でボートを航行させて、水を排出します。



警告

キャップを取りはずす際は、ボートを停船させ、船外機を止めてから行ってください。また、排出が終わりましたら必ずキャップを閉めてください。

7 モーターマウント

アキレスパワーボートのモーターマウントには種類があります。ボートの種類により使用できるモーターマウントは異なりますので、ご購入の際は事前確認をした上で、お間違えのないようご注意ください。

木製 モーターマウントの取り付け方法

1. 本体チューブは5割程度、充気した状態で取り付けを行ってください。
2. 図AのようにB板の下部をボート側面にあるループベルトに通してください。その際、B板のストッパーがループベルトの外(下)に出るようにセットしてください。
3. 図Bのようにモーターマウントを開き、A板を水平にしてボートに接着してあるハトメ付き取り付け座の後側布をA板の長穴に差し込み、図B 図Cのように紐でしっかりと固定してください。
4. 最後に本体チューブを再充気して、モーターマウントをボート本体にしっかりと固定して完了です。

警告

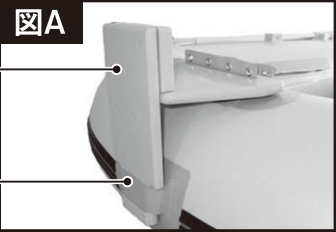
紐がしっかりと固定されていることをよく確認してください。B板のストッパーがループベルトの下にあり、持ち上がらないことをしっかり確認してください。50LBS(ポンド)以下のエレキモーターを使用してください。

取り付けイメージ



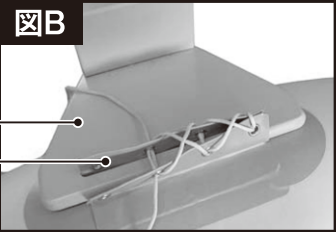
図A

B板
ループベルト

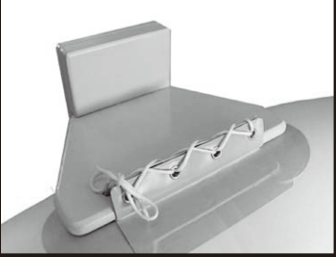


図B

A板
後側布



図C:完成イメージ



パイプ式 モーターマウントの取り付け方法

1. 本体チューブは5割程度、充気した状態で取り付けを行ってください。また、モーターマウントには取り付け順がありますので、よく確認してから設置してください。
2. 図Aのようにボート側面にある穴に、パイプを差し込みます。
3. 図Bのように本体チューブ上面にある、2箇所の穴にパイプを差し込みます。
4. 図Cのように4箇所にしっかりと差し込み固定したら、本体チューブに再充気をして設置完了です。

警告

モーターマウントと船外機がしっかりと固定されていない場合、取り付けた船外機がはずれて落水する可能性があります。

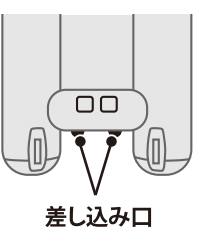
取り付けイメージ



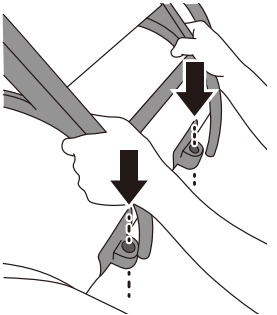
取り付けイメージ



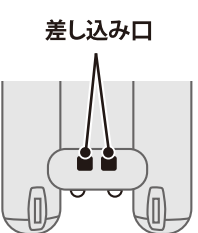
図A:ボート俯瞰図



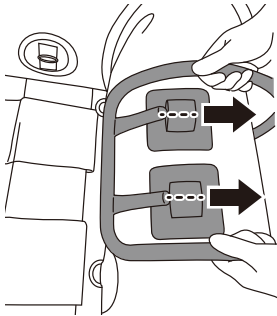
差し込み口



図B:ボート俯瞰図



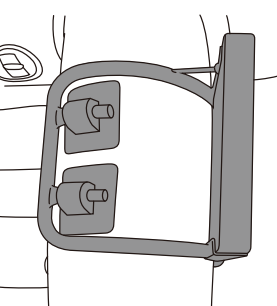
差し込み口



図C:ボート俯瞰図



4箇所に
差し込み完了

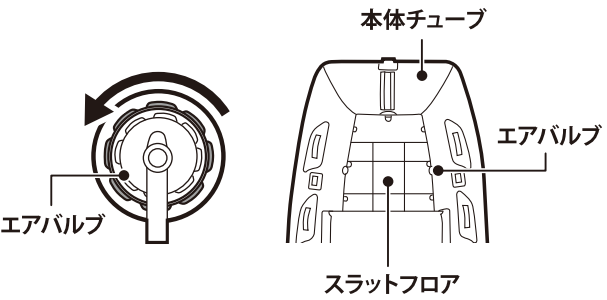


5. ボートの収納方法

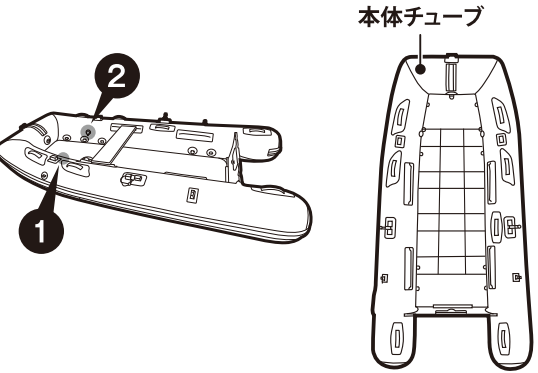
ロールアップフロアの場合

1 エアバルブの開放

本体チューブのエアバルブを反時計回りに回して、エアバルブを取りはずして排気します。



続いて本体チューブのエアバルブを取りはずして空気を抜きます。空気が抜けたら、下記の手順でボート本体を収納してください。
※この時、ボートの下に毛布などを敷いてボートが地面で傷つかないように配慮してください。



エアフロアの場合

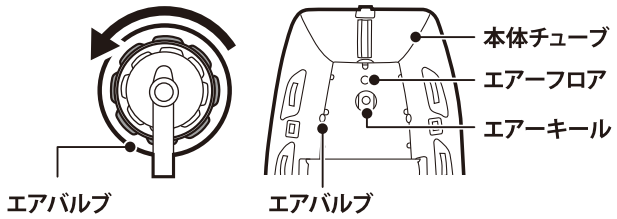
1 エアバルブの開放

下記の順番でエアバルブを反時計回りに回して、エアバルブを取りはずして排気します。

※ボートの種類により、エアーキールがないものもあります。

開放の順番 ※順番は必ず守ってください。

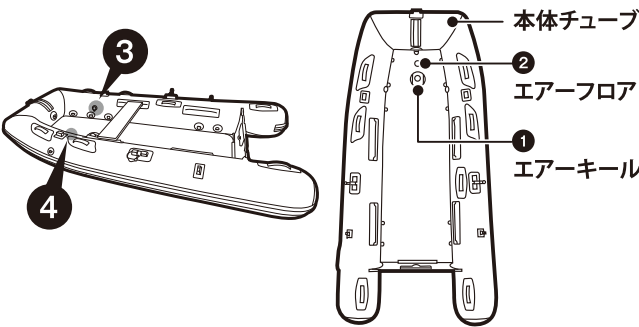
①エアーキール ②エアフロア ③本体チューブ



2 エアフロアの取りはずし方

続いてエアフロアのエアバルブを取りはずして空気を抜きます。空気が抜けたらエアフロアを取りはずし、次に本体チューブのエアバルブを取りはずしてください。

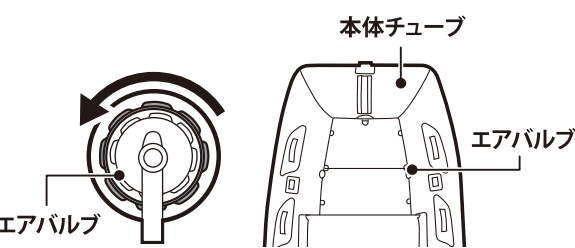
※この時、ボートの下に毛布などを敷いてボートが地面で傷つかないように配慮してください。



折りたたみ式の場合

1 エアバルブの開放

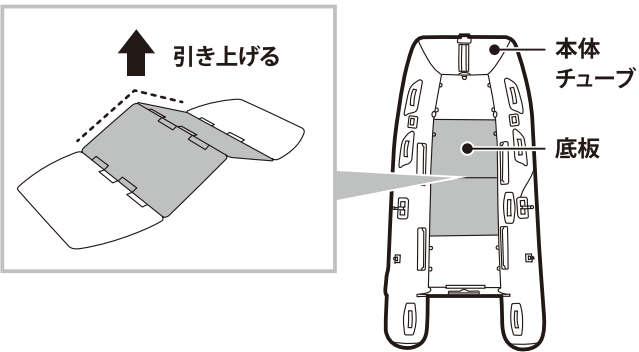
本体チューブのエアバルブを反時計回りに回して、エアバルブを取りはずして排気します。



2 折りたたみ式(底板)の取りはずし方

空気が抜けたら底板の中央部を引き上げて底板を取りはずしてください。

※この時、ボートの下に毛布などを敷いてボートが地面で傷つかないように配慮してください。



組み立て式の場合

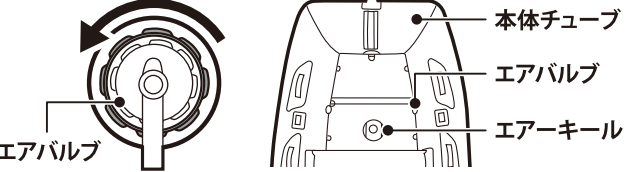
1 エアバルブの開放

下記の順番でエアバルブを反時計回りに回して、エアバルブを取りはずして排気します。

※ボートの種類により、エアーキールがないものもあります。

開放の順番 ※順番は必ず守ってください。

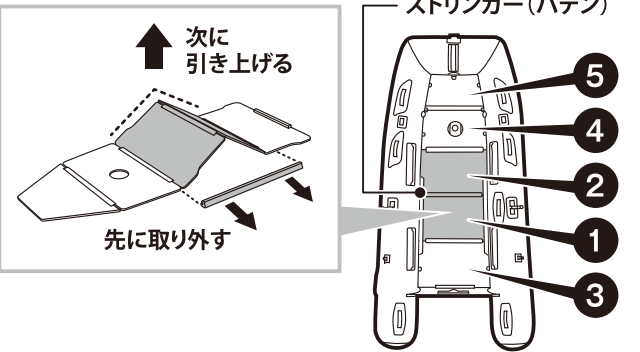
①エアーキール ②本体チューブ



2 組み立て式(底板)の取りはずし方

空気が抜けたら2箇所のストリンガー(バテン)を取りはずし、①番と②番の板を同時に引き上げてください。その後、③番、④番、⑤番の順に底板を取りはずしてください。

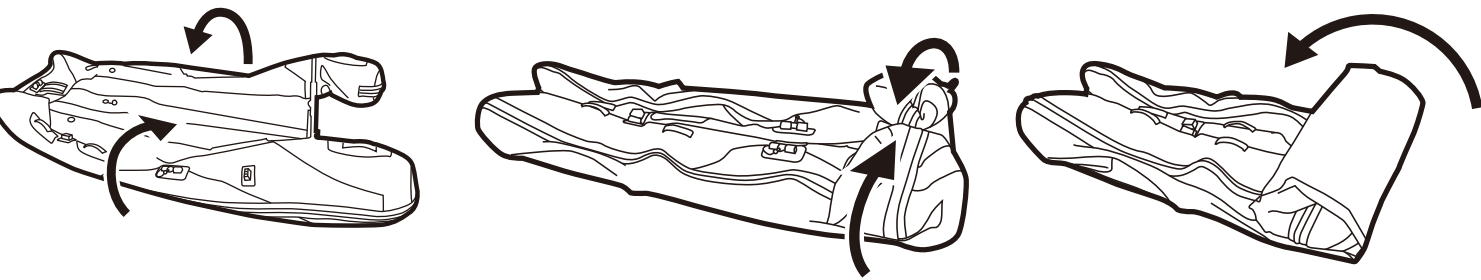
※この時、ボートの下に毛布などを敷いてボートが地面で傷つかないように配慮してください。



3 ボートのたたみ方と収納方法

※空気が抜けた後の手順については、各ボート共通です。

- ①本体チューブの空気が抜けたら、左右の本体チューブをボート中央へ折り込みます。 ➡ ②エンドコーンも空気を抜きながら、ボート中央へ折り込みます。 ➡ ③船尾の方から船首に向かって折りたたみます。



- ➡ ④さらに船首から船尾に向かって折りたたみます。 ➡ ⑤最後までしっかりと空気を抜きながら折りたたみます。 ➡ ⑥付属のキャリーバッグを準備し、ボート本体を包みます。 ➡ ⑦最後にキャリーバッグのバックルを留めたら完了です。



6. 船外機について

⚠ 危険

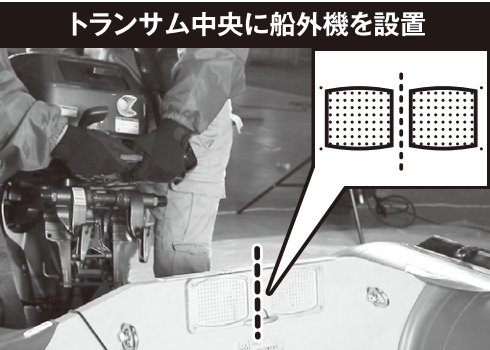
ボートによって定められた最大搭載馬力を超える船外機をご使用にならないよう、各ボートの推奨馬力及び最大馬力をご確認ください。船外機にはS、L等のトランサムがあります。弊社のカatalogに掲載する、トランサムの長さの船外機をご使用してください。

1 船外機の取り付け方法

1. 船外機のクランプスクリューを反時計回りに回して緩めます。

⚠ 注意

取り付け位置が左右にズレてしまうと、直進安定性や操縦性に支障が出る恐れがありますので、必ずトランサム中央に取り付けてください。安全のため、2人1組で作業することをお勧めします。



2. 船外機を持ち上げて、トランサムの中央に設置します。

⚠ 警告

船外機を取り付ける際は、指を挟まないように十分に注意して作業を行ってください。

⚠ 注意

クランプスクリューにはハンドルが取り付けられていますので、これを握ってしっかり締めてください。

3. しっかりと締めたら、設置完了です。

⚠ 注意

船外機の取り付けが不完全だと、航行中に船外機を水中に落とす恐れがあります。クランプスクリューは確実に締めてください。また、スクリューが緩んでいないか、定期的に確認してください。



⚠ 警告

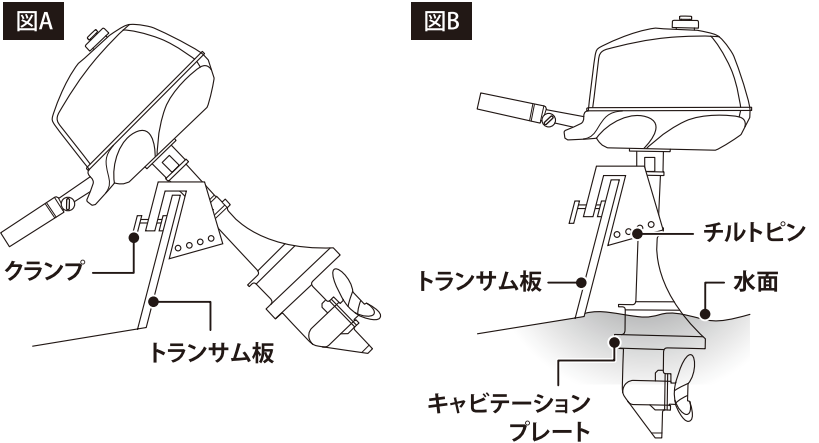
水冷式の船外機の場合、陸上で冷却水がない状態で運転しないでください。冷却水がないとウォーターポンプが損傷し、エンジンのオーバーヒートを招きます。

詳しくは、船外機に付属の取扱説明書をご確認ください。

2 船外機の調整方法

ボートをベストコンディションで走行させるためには、船外機のトランサムに対する角度調整が必要です。図A 参照。

- 一般的な法則として、船外機のキャビテーションプレートと水面が平行になるようにチルトピンで角度を調整してください。図B 参照。
- 船外機にはS、L等のトランサムがあります。弊社のカatalogに掲載する、トランサムの長さの船外機をご使用してください。

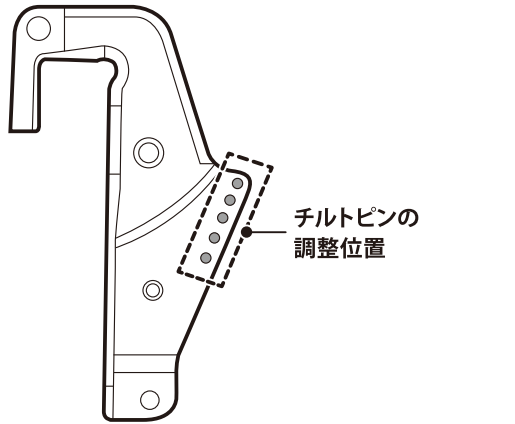


3 チルトピンの調整方法

船外機の角度を調整して航走姿勢を最良の状態にするためのピンです。

- ボートのバウ(船首)を上げるためには、チルトピンの位置を上のに差し替えてください。
- ボートのバウ(船首)を下げるには、チルトピンの位置を下のに差し替えてください。
- 水面の状況によりチルトピンの位置を調整して使用してください。

詳しくは、船外機に付属の取扱説明書をご確認ください。



⚠ 注意

船外機の角度を調整する前には、必ずエンジンを停止してください。周辺に人が居ないことを確認し、身体が挟まれないように注意して作業を行ってください。トリム角度を変えて最初に操船する時は、細心の注意を払ってください。徐々に速度を上げ、船体の安定性や操作性に問題がないかどうか確認しながら行ってください。

4 船外機を始動する前に

安全にご利用いただくために、エンジンを始動する前に以下の項目をよくご確認ください。

⚠ 注意

指定燃料、エンジンオイルが各々のタンクに規定量入っていることを確認してください。ただし、規定量を超えるとエンジンがかかりにくくなることがあります。適正の容量と手順については、各船外機に付属の取扱説明書をよくご確認ください。

スロットルレバーが正しく作動することを確認してください。このシステムに不備があった場合、その部分が修正されるまで、エンジンの始動を試みないでください。シフトレバーがニュートラル位置にあることを確認してください。

また、陸上でエンジンを始動させないでください。船外機の故障の原因になります。

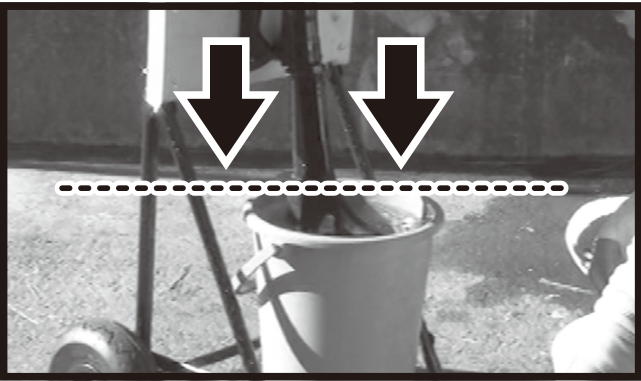
詳しくは、船外機に付属の取扱説明書をご確認ください。

5 船外機の始動方法

エンジン冷却のため外部から水を必要とします。陸上で船外機を始動する場合は、加熱による破損を防ぐため、必ずバケツに水を溜めてから始動してください。

この時、プロペラ上部のキャビテーションプレートの10cmくらい上まで水位を上げてください。右図参照。

※ギアが中立(ニュートラル)であることを確認してください。
※船外機がバケツに入らない場合は、別売りのモーターフラッシャーをご使用ください。



⚠ 注意

エンジンを始動する時は、エマージェンシーコードが停止ボタンに装着されていることを確認し、操船時はかならず自分の身体につけてください。初回使用時や気温が低くエンジンがかかりにくい場合は、チョークを使用して始動してください。エンジンを停止するには、停止スイッチを長押ししてください。

船外機の詳しい操作手順、注意事項については、各船外機に付属の取扱説明書をご確認ください。

7. 走行時の注意事項について

インフレーターボートの重量は、木製あるいはプラスチック製のボートに比べて軽く、船底の構造及び材質が異なっています。初めてアキレスボートをご使用になる際は、安全な場所でスタート、ストップ、バック、8の字運転を行い、水上でこのボートの特性を学び操船技術を習得してください。同時に後進時の操作性、及びアクセルワーク（エンジン回転数）による船体の推進特性も習熟してください。

1 離岸

警告

インフレーターボートのチューブがクッションの役割を持ち、衝撃を吸収する強さを持つように設計されていますが、岸から離れる際に本体チューブを傷めないように注意してください。また、コンクリートや岩の上を引きずったりしないでください。

もやいロープを解き、ボートの中にきちんと固定してください。

※もやいロープを船尾に垂らさないでください。エンジンのプロペラにからみ非常に危険です。

岸壁を手かオールで押して岸から離れます。この時、進行方向が岸に対して20°～30°が望ましい角度です。スピードを落として走らせている時には、クラッチを正確に、かつ素早く操作してください。不正確なクラッチ操作は、クラッチが損傷したり摩耗したりする原因となります。

注意

舷側から身体を乗り出すと大変危険です。船体が不安定になり、落水の危険があります。また、港やマリナー内で他のボートが繋がれているような場合は、周りに注意しながらスピードを落として走行してください。

広い場所に出てから、再度安全を確認できた上でスピートを上げて走行してください。

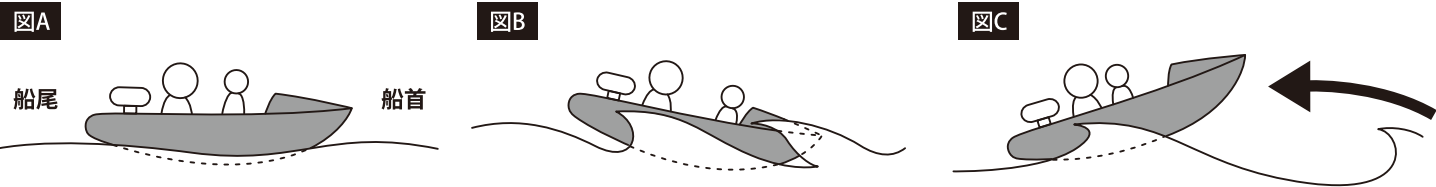
2 走行

スタートする時、極端な加速は避けてください。エンジンのスロットルを開いていくとボートはヘッドアップし、加速が進むにつれてすぐに水の抵抗が少なくなりヘッドアップはなくなります。その後、スピードは急速に増加します。即ち、滑走状態（プレーニング）の状態となります。二人以上が乗船する場合、そのボートの特性をよく考慮し、座る位置を決めてください。また、物を乗せる場合にも同じような配慮をしてください。

ボートがヘッドアップした状態から滑走状態（プレーニング）に移る時、**図A** のように座ると船首を下げるのに有効的です。尚、エンジン、乗員等により滑走状態にならない場合があります。

警告

船首の方に乗員の重量が偏りすぎると、水平方向に移る際に **図B** のように船首が下がります。また、船尾の方に乗員の重量が偏るとヘッドアップしやすい状態になり、**図C** のように風を受けた場合、転覆する場合がありますので、乗船の際は、細心の注意を払ってください。



3 旋回

旋回に入る前にスロットルグリップを戻し、船のスピードを十分に減速してください。

警告

高速で急旋回すると乗員が落水したり、船体がスピンして危険ですので、十分に船体のスピードを減速してください。また、旋回をする前に、その進行方向の安全を十分に確認してから行ってください。

4 着岸

1. 桟橋の状況が確認できる位置まで進入し、着岸場所を決定します。
2. 船を桟橋の着岸位置（着岸点）に対して20°～30°で進入できる位置にし、着岸点の付近に障害物がないかどうか安全を確認してください。低速で桟橋に向かいます。
3. 着岸点の手前30m位の所で一度スロットルグリップを戻し、船の行き足を最低速にします。再度、スロットルグリップを少し回し、着岸点の手前の位置に向けて微速で接近します。速力がつき過ぎたらスロットグリップでスピードのコントロールをしてください。
4. 桟橋に近づいたらハンドル操作を行い、船体を桟橋と平行になるようにします。この時、船の行き足が強く、着岸点を通過してしまいそうになったり、桟橋にぶつかりそうになった時はシフトコントロールレバーを後進側に操作し、船の行き足を止めます。
5. シフトコントロールレバーをニュートラル位置にしてください。最後にボートフック等を使用し船を桟橋に引き寄せてください。

注意

風、波、潮流島の影響でボートの針路が着岸点に対してズレないように、操船を行い針路をコントロールしてください。

5 係留

1. 船を係留する時は、波が静かで風の少ない所を選んでください。
2. 船を桟橋に係留する場合、通常、船首と船尾から1本ずつロープを取り、桟橋の係留設備に係留してください。
3. 風向き、潮の流れ、干満潮時の水深、引き波、係留スペース等を考慮し、安全に係留を行ってください。また、他船に迷惑をかけることのないようにしてください。
4. 桟橋、岸壁及び隣の船等に接触して船体が損傷することを防止するために、フェンダー類（防舷材）を使用し、船体を保護してください。

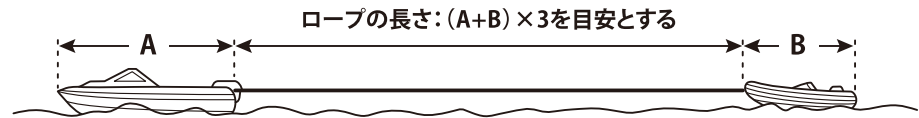
注意

係留保管は行わないでください。係留保管は船体に貝、藻類の付着を招きます。その結果、船体の性能を十分に発揮させることができなくなります。

6 曳航

燃料切れ、エンジントラブル、その他のトラブルが発生し、自力にて航走が不可能になった場合、他船に曳航してもらうことが可能です。曳航の際は下記の注意事項を守って従ってください。

1. 十分な強さの曳航ロープを使用してください。
2. 曳航ロープの長さは、曳航船と曳航される船の長さを足した3倍の長さを目安としてください。



7 走行時の注意事項

⚠ 危険

インフレーターボートは風が強かったり、波の高い外海で使用するようには設計されていません。従って、外海の風が強い時にはボートに乗らないように、長時間の走行予定はたてないようにしてください。事故を防ぎ、安全にボートを乗船していただくために、2双以上のボートでのグループで乗っていただくことをお勧めします。

⚠ 警告

インフレーターボートは軽く、そして底が平なので(エアーキールによりV字型の底もあります。)風に流されたり、水流や波で横や縦に揺らされることがあります。また、片側への荷物の搭載はインフレーターボートへの過大な重荷を負わせることになります。船首から風が吹いている時は、搭載物を船首に。船尾から風を受ける時は、搭載物を船尾に置くようにしてください。肝心なことは搭載総重量をその時の状況に応じて、全体的なバランスを保つようにすることです。海や河の水の流れの速い所では操縦に充分注意してください。万が一、チューブ(気室)から空気が抜けても、チューブの内部は隔膜で分離されているため、浮力は保たれて沈むことはありません。もし、このような事態になった場合、空気の抜けていないチューブ側に寄り、スロースピードで岸に帰航してください。この際、ボート上で立ち上がったり、急いだり、慌てて航行することは大変危険ですので、落ち着いて対処するように心掛けましょう。

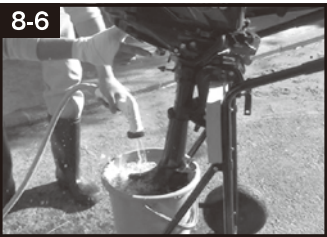
内部の隔膜が正常に作動しているかどうかチェックするために、一つの本体チューブだけに充気します。数時間経過した後、内圧に変化がなければ正常に動作していることになります。

8. 保管・補修について

アキレスパワーボートのご使用後のお手入れ、保管状態がこの船の性能、品質の維持に影響を与えます。航行の安全性を確保するためにも、適切なお手入れと保管をお願いいたします。

1 使用後の洗浄

- ボート本体とオール、船外機、底板等の付属品は真水でよく洗ってください。
 - 油等の付着物は、中性洗剤で洗い落としてください。
 - 中性洗剤で落ちない場合は、ベンジン、シンナー等を使用します。白く柔らかい布に必要最低限の量を浸し、軽く拭き取って洗い落としますが、使用する場所を限定し、必ず保護具を着用して、短時間で作業を終了させてください。また、作業後は速やかにベンジン、シンナー等を洗い落として拭き取ってください。
※ベンジン、シンナー等の溶剤はボート布を劣化させる恐れがあります。
 - 使用後は船外機内部の海水を洗浄する必要があります。陸上で船外機を始動する場合は、加熱による破損を防ぐため、必ずバケツに水を溜めてから始動してください。この時、プロペラ上部のキャビテーションプレートの10cmくらい上まで水位を上げてください。(右図の8-6を参照。)
※ギアが中立(ニュートラル)であることを確認してください。
※船外機がバケツに入らない場合は、別売りのモーターフラッシャーをご使用ください。
- 詳しくは、各船外機に付属の取扱説明書をご確認ください。



⚠ 注意

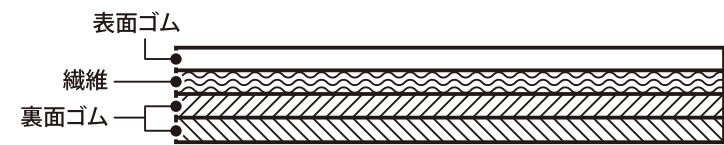
ボートを傷付ける恐れがありますので、砂や小石は水で洗い落としてください。また、ボート内に残った砂や小石も必ず取り除いてください。

2 保管方法

- 水洗いをした後は、日陰でよく乾燥させてください。
- 収納袋に収納し、日の当たらない風通しの良い場所に保管してください。
- ボートを無理にきつく折りたたまないでください。折り曲げた角から傷つき、亀裂が発生する可能性があります。
- ボートの上に物を載せないでください。折り曲げた部分に傷ができる可能性があります。

3 修理

1 ゴム引布の構造



2 推奨できる市販の接着剤

・ボンド G-17(コニシボンド) ・ニッショーボンド 350X(日商化成)

※塗料店、建材店、ホームセンター等で入手することができます。

成分はクロロプレン系合成ゴムで、合成ゴム・天然ゴム等に有効な接着力を発揮します。(補修セットの中にチューブ形態で入っています。)接着方法は後述しますが、自転車タイヤの修理のように、接着しようとする両面に接着剤を塗布した後、乾燥させ、接着剤の溶剤が蒸発してから貼り合わせて圧着します。

3 修理方法

使用中の損傷や比較的大きな損傷は簡単に発見できますが、小さな穴(ピンホール)は、意外と発見しにくいものです。次の順序で点検し、空気漏れ箇所を調べてください。

- ボートの内圧を通常使用圧より幾分高めにし、石鹼水を全面に塗ってください。空気漏れ箇所が泡立ち容易に発見できます。
- 空気漏れ箇所にマーキングしてから石鹼水を落とし、損傷部周辺の汚れをきれいにベンジンまたはシンナーで拭き取り、よく乾かしてから下記の手順で修理を行ってください。

傷の大きさが3cm未満の場合の修理方法

1 修理箇所のマーキング・バフ・糊塗り

マーキングは、破れ箇所より2〜3cm広めに書き、マーキング内及び補強布にバフ掛け(サディング)をし、糊を均一に塗布します。指先でタッチした際に、糊が糸を引かない程度に乾燥させます。糊の塗布と乾燥確認を3回繰り返します。

2 補修布の接着

損傷面と補修布をマーキングに合わせて静かに接着し、矢印のように中心から外側に向かってローラー状(木製、金属製)の物で均一に圧着します。
※少なくとも24時間以上乾燥させてから充気し、エアー漏れをチェックします。

3 修理後の確認

ハケ等を使用し、補修布の周りに石鹼水を塗布し、目視で泡立ちの有無を確認します。
※泡立ちがある場合は、補修が不完全の証拠です。補修布を完全に剥がして、最初からやり直してください。

※傷が大きく補修が困難な場合は、弊社工場にて修理も受け付けておりますので、お問い合わせください。